

修士論文
2013年1月

形容詞の連用形とその中国語訳に見る構文研究

指導 青山文啓 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
211J3011
蒋昊

目 次

第1章	はじめに	1
1.1	形容詞の三つの用法	1
1.2	形容詞の連用形：「形容詞」と見るか、「副詞」と見るか	2
1.3	連用修飾：その機能の分類	3
1.4	本稿で対象としない用例	5
第2章	形容詞の連用形の機能分類	8
2.1	形容詞・形容動詞が後続する構文	8
2.2	動詞が後続する構文	10
2.2.1	結果修飾	11
2.2.2	様態修飾	13
2.2.3	結果修飾と様態修飾のつながり	15
2.2.4	結果修飾と動詞「なる」	16
2.3	その他	17
第3章	形容詞の連用形に対応する中国語構文の問題	19
3.1	中国語文法の説明	19
3.1.1	状況語	19
3.1.2	補語	20
3.2	形容詞・形容動詞が後続する場合、その中国語構文との比較	20
3.3	動詞が後続する場合、その中国語構文との比較	23
3.3.1	並列と内容	23
3.3.2	結果修飾	26
3.3.3	様態修飾	28
3.4	その他	30
第4章	日本語と中国語の相違点	32
4.1	形容詞・形容動詞が後続する場合	32
4.2	動詞が後続する場合	33
4.3	日中語の相違点から見える両言語の特徴	36
4.4	まとめと今後の課題	37

参考文献

第1章 はじめに

日中対照研究は多く行われているが、形容詞に目を向けるものはまだ少ない。日本語の形容詞は、述語になるだけでなく、連体形と連用形の形で、名詞、形容詞、動詞の前にも現れる。一方、中国語の形容詞も日本語の形容詞と似ているところが多く、述語になる場合もあり、名詞や動詞の前にも現れる。ところが、日本語の形容詞が連用形で現れる場合、対応する中国語訳では、同じように用言の前に現れることは少なく、語順を変えなければ適切な中国語にならない場合が多い。その原因は日本語の形容詞連用形は、語形が同じでも、実際の意味と機能がさまざまあるからだと推測される。本稿は、日本語と中国語とを対照して、日本語の形容詞の連用形の機能分類、およびそれに対応する中国語訳の統語成分の解明を試みようとするものである。

連用形とはあくまで形態から捉えた名称である。実際、形容詞の連用形が連用修飾だけに使われているわけではないことは先行研究からも分かる(橋本・青山1992)。また、連用修飾としても違いが見られ、細分類する必要がある。仁田(2002)では形容詞の連用形も含めて連用修飾成分を「結果の副詞」「状態の副詞」「程度量の副詞」「時間関係の副詞」「頻度の副詞」に分類している。本稿はこの分類を参考に、形容詞の連用形の機能、および中国語との対応関係を分析・考察する。分析に用いる用例は主に日本の小説『ノルウェイの森』(上・下)及びその中国語訳版《挪威的森林》から収集したものである。尚、形容詞の連用形と言っても、すべてを本稿の研究対象とするわけではない、「～クナイ」、「～クテ」などの形式で現れる連用形は分類や分析の対象外とする。

第2章 形容詞の連用形の機能分類

形容詞の連用形はまず、連用修飾とそうでないものに分けられる。さらに、連用修飾の場合、主に主体や対象の状態を表わす結果修飾と動きの様子を表わす状態修飾に分けられる。連用修飾ではないものには、並列の機能と内容を表わす機能の二種類がある。

第3章 形容詞の連用形に対応する中国語構文の問題

日本語の形容詞連用形の機能に応じて、対応する中国語構文にはそれぞれ特徴が見られる。並列の場合、中国語も並列構造をとる。日本語と同様、並列は限定語(連体修飾)あるいは述語として現れる。内容を表わす場合、中国語では、目的語の一部あるいは目的語そのものとして現れる。結果修飾の場合、中国語は結果を表わす補語成分として現れる。場合によって、限定語成分(連体修飾)として現れることもある。状態修飾の場合、中国語は日本語の構文と似た状況語成分(連用修飾)として現れることが多い。

第4章 考察とまとめ

形容詞の連用形に関して、対応する中国語にはいろいろな構文の違いが存在するが、連用修飾に注目すれば、日本語との共通点は多いと言える。しかし、並列の場合、日本語では形容詞と動詞の並列も可能であることと、結果修飾において、対応する中国語が連体修飾の限定語としても用いられる場合があることは、日本語と中国語の違いと見られる。この二つの相違点の存在にも注意する必要があるだろう。

参考文献

- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論—』大修館
- 王浩智(2004)『日本語から学ぶ中国語・中国語から学ぶ日本語』東京図書
- 北原保雄(1976)「文の構造」『岩波講座日本語 6 文法 I』大野晋・柴田武[編]岩波書店
- 金田一春彦[編](1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 金田一春彦(1988)『日本語新版・下』岩波書店
- 工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』渡辺実[編]明治書院
- 新川忠(1979)「副詞と動詞とのくみあわせ」試論『言語の研究』言語学研究会[編]むぎ書房
- 新川忠(1996)「副詞の意味と機能—結果副詞をめぐって」『ことばの科学 7』言語学研究会[編]むぎ書房
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 孫 琦(1998)「属性形容詞の連用修飾機能」『ことば』第 19 号
- 時枝誠記(1950)『日本文法口語篇』岩波書店
- 中川正之(1997)「類型論からみた中国語・日本語・英語」『日本語と中国語の対照研究論文集』大河内康憲[編]くろしお出版
- 仁田義雄(2002)『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 橋本三奈子・青山文啓(1992)「形容詞の三つの用法：終止、連体、連用」『計量国語学』第 18 巻第 5 号
- 堀重彰(1931)『日本語の構造』畝傍書房(勉誠社 1997)
- 矢澤真人(2000)「副詞的修飾の諸相」『日本語の文法 1 文の骨格』仁田義雄・益岡隆志[編]岩波書店
- 山田孝雄(1936)『日本文法学概論』宝文館
- 渡辺実(1971)『国語構文論』塙書房
- 渡辺実(2002)『国語意味論』塙書房
- 刘月华・潘文娱・故韡(1996)『現代中国語文法総覧』片山博美・守屋宏則・平井和之[訳]くろしお出版
- 北京大学中文系现代汉语教研室(2004)《现代汉语》商务印书馆
- 黄春玉(2011)《关于结果补语的中日比较研究》上海译文出版社
- 张国宪(2006)《现代汉语形容词功能与认知研究》商务印书馆

辞書

- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫[編](2009)『岩波国語辞典第 7 版』岩波書店
- 林四郎・相沢正夫・大島資生・篠崎晃一[編](2006)『例解新国語辞典』三省堂

用例出典

- 村上春樹『ノルウェイの森(上・下)』講談社 2004
- 村上春樹『挪威的森林』林少华译 上海译文出版社 2007
- 「日中対訳コーパス」北京外国語大学北京日本学研究中心 2003